

## 平成 24 年度ワカサギ漁期前調査

### —調査結果報告書—

#### 目的

霞ヶ浦北浦におけるワカサギ漁解禁前の資源状況を漁業者とともに確認する。

#### 調査方法

##### 1. 調査日

- 1) 霞ヶ浦：平成 24 年 6 月 27 日，曇り（H23 年は 6 月 28 日に実施）
- 2) 北 浦：平成 24 年 7 月 4 日，曇り（H23 年は 7 月 6 日に実施）

##### 2. 調査場所（図 1）

- 1) 霞ヶ浦 4 水域：湖心，牛渡沖，沖宿沖，八木蒔沖  
（曳網層は，湖心では表層と底層，その他では表層のみ）
- 2) 北 浦 4 水域：水原沖，白浜沖，江川沖，馬渡沖  
（曳網層は，水原沖では表層と底層，その他では表層のみ）

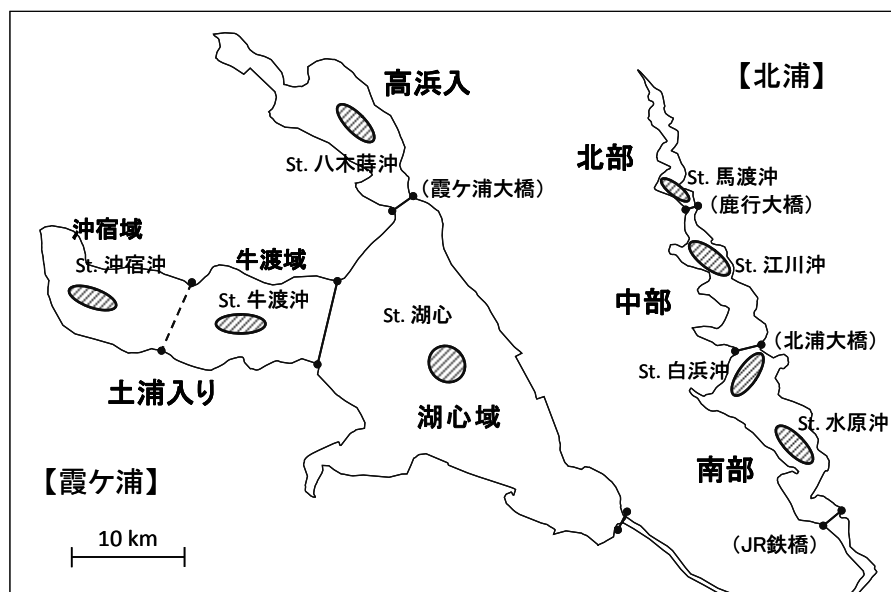


図 1. 霞ヶ浦と北浦における調査地点と水域名.

##### 3. 採集方法

漁具は，わかさぎ・しらうおひき網を用いた。

曳網時間は 20 分を基本とし，馬渡沖のみ 10 分とした。

ただし，本報告書での馬渡沖のデータは 20 分あたりの換算値を用いている。

# 結果一霞ヶ浦

## 1. 採捕重量と採捕尾数

最も多く採捕されたのは八木蒔沖で (72.6 kg, 103,255 尾), 湖心, 牛渡沖, 沖宿沖はそれぞれ同レベル (34.8~35.6kg, 45,506~53,948 尾) であった。

採捕重量を昨年と比べると, 湖心では 2.7 倍\*, 牛渡沖では 1.6 倍, 八木蒔沖では 2.1 倍多く採捕されたが, 沖宿沖は 0.6 倍であった (図 2 上)。

採捕尾数を同様に比べると, 湖心では 5.3 倍\*, 牛渡沖では 2.8 倍, 沖宿沖では 1.2 倍, 八木蒔沖では 3.3 倍多かった (図 2 下)。

\*表層と底層の合計値で比較

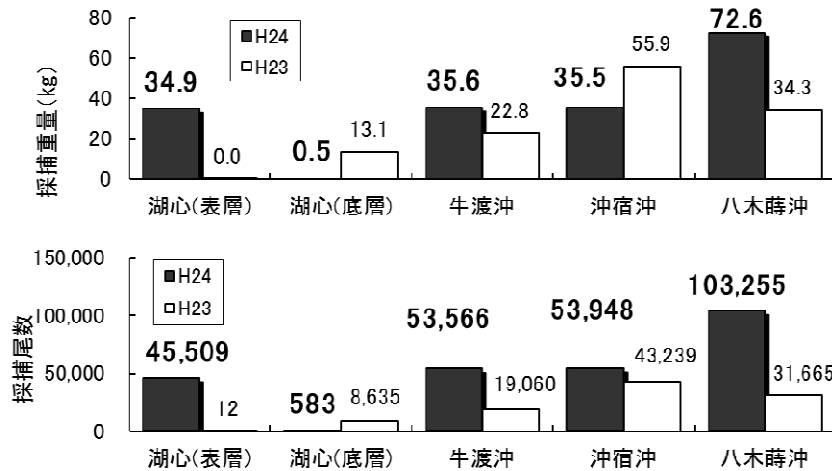
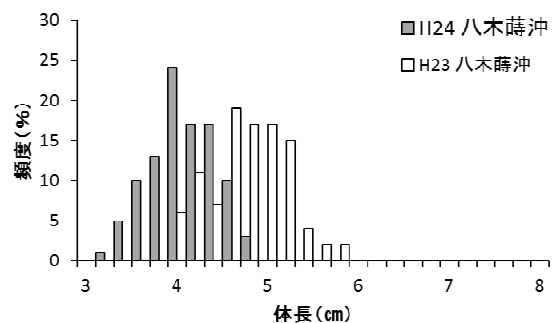
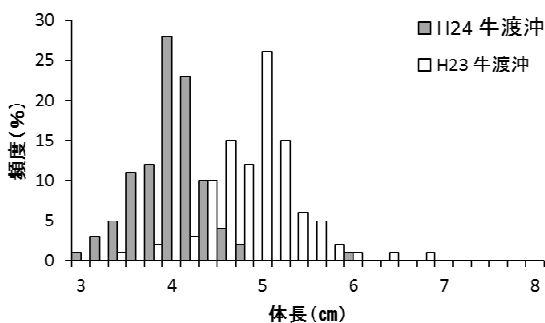
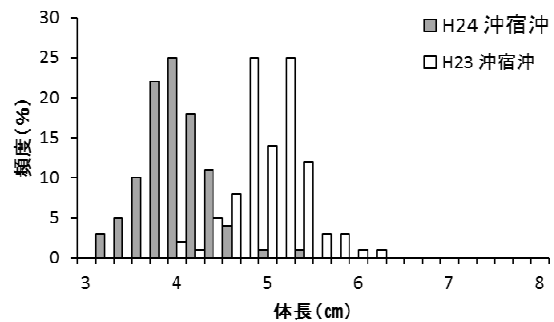
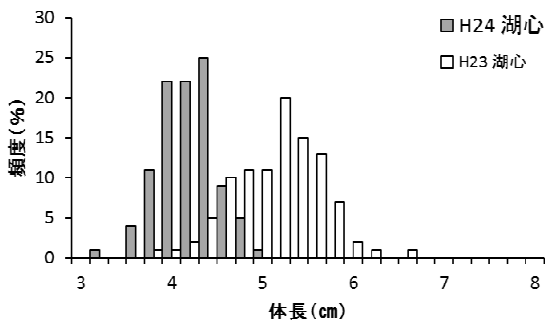


図 2. 今年と昨年の霞ヶ浦における採捕重量 (上図) と採捕尾数 (下図)。

## 2. 魚体の大きさ

各地点での体長組成を下図に示す。これらの平均体長は 4.1~4.3 cm, 平均体重は 0.7~0.8g であり, 昨年より体長で約 1 cm, 体重で約 0.5g 小さかった (右表)。

	H24		H23	
	体長 (cm)	体重 (g)	体長 (cm)	体重 (g)
湖心	4.3	0.8	5.3	1.5
牛渡沖	4.1	0.7	5.0	1.2
沖宿沖	4.1	0.7	5.1	1.3
八木蒔沖	4.2	0.7	4.9	1.1

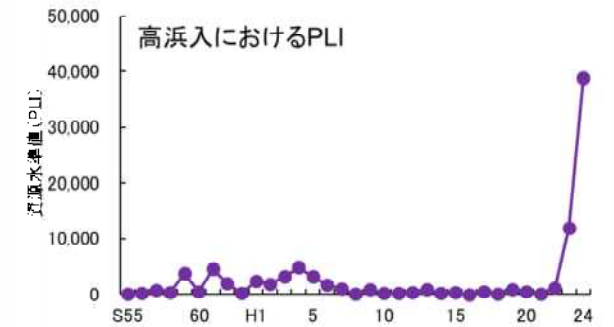
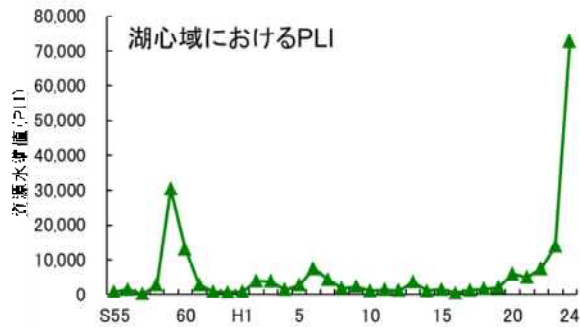
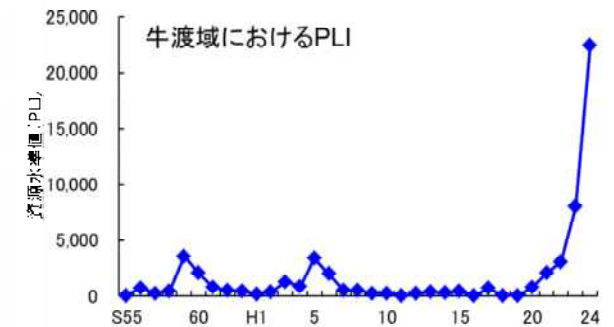
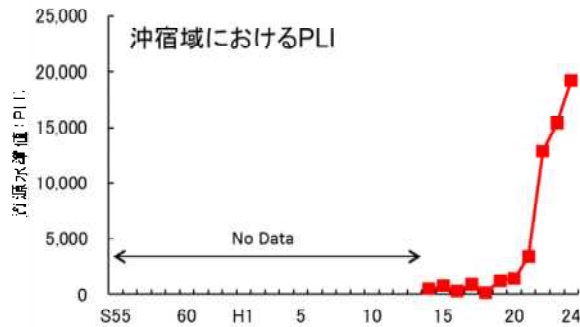
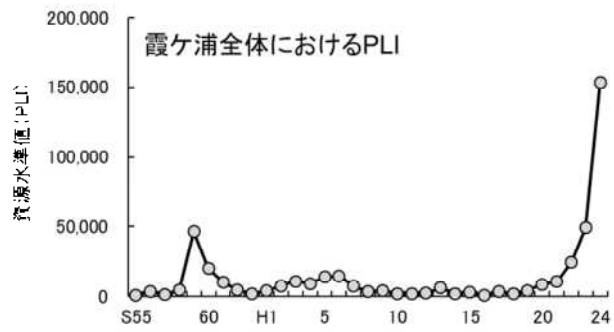


### 3. ワカサギの資源水準

採捕個体数から面積密度法を用いてワカサギの資源水準値 (PLI) を算出した。

霞ヶ浦全体の PLI は 153,446 となり、昨年の約 3 倍で、過去最高の水準となった (右図)。

同様に各水域別にみると、昨年に比べて沖宿域では 1.2 倍、牛渡域では 2.8 倍、湖心域では 5.3 倍、高浜入では 3.3 倍と高く、湖心域において増加が顕著であった。



### 4. 漁模様予測

霞ヶ浦全体の PLI と魚体サイズから、解禁日と 7 月下旬および 8 月上旬の 1 日 1 隻あたり漁獲量 (CPUE), さらに年間漁獲量について予測値を算出したところ、1,700 トンとなり、昭和 59 年の 1,290 トンを上回る程の豊漁が見込まれた。

なお、今回予測した CPUE および年間漁獲量は、魚体サイズが小さいことも考慮した上で算出している。

#### 【漁模様の予測値】

- ・ 解禁日の CPUE… 750kg (H23 予測値 370kg, H22 予測値 180kg)
- ・ 7 月下旬 CPUE… 400kg (H23 予測値 200kg, H22 予測値 100kg)
- ・ 8 月上旬 CPUE… 290kg (H23 予測値 150kg, H22 予測値 60kg)
- ・ 年間漁獲量… 1,700 トン (H23 予測値 900 トン, H22 予測値 450 トン)

※これら予想値は、近年の漁獲圧のもとで期待される値。

# 結果－北浦

## 1. 採捕重量と採捕尾数

最も多く採捕されたのは馬渡沖で（81.2kg, 93,292尾）、水原沖、白浜沖、江川沖はそれぞれ同レベル（16.2～17.6kg, 12,800～18,484尾）であった。採捕重量を昨年と比べると、馬渡沖では1.3倍、水原沖では580倍多く採捕されたが、江川沖と白浜沖では0.5倍であった（図3上）。

採捕尾数を同様に比べると、馬渡沖では1.5倍、水原沖では440倍多く採捕されたが、江川沖と白浜沖では0.7倍であった（図3下）。

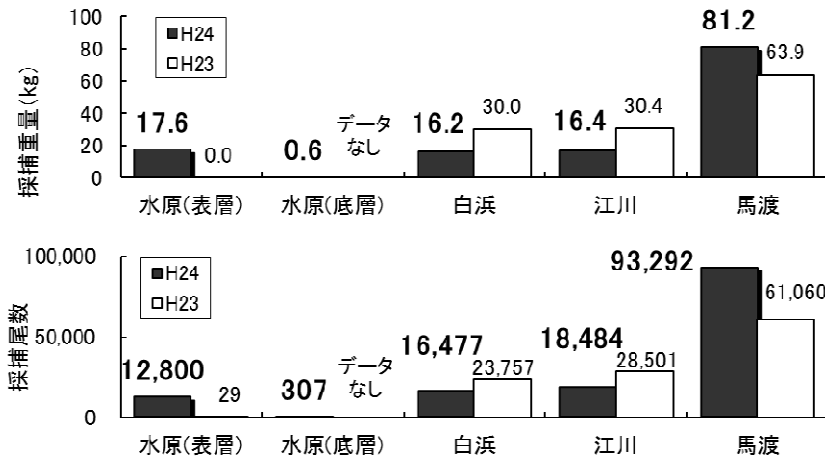
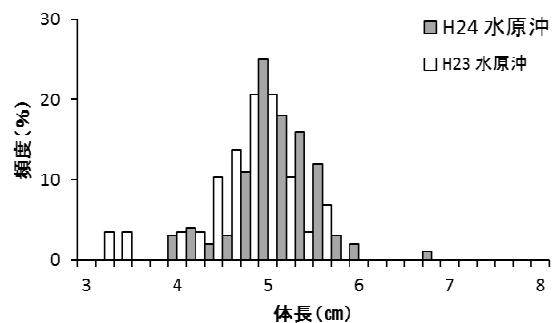
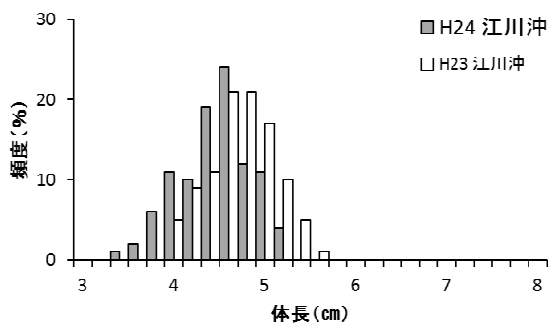
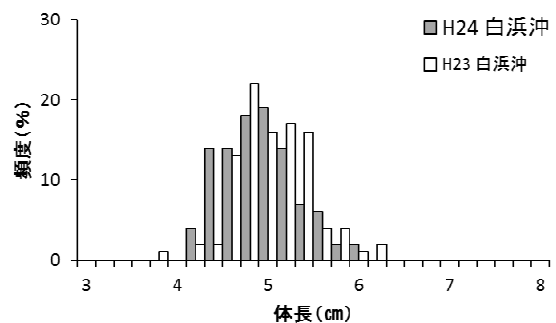
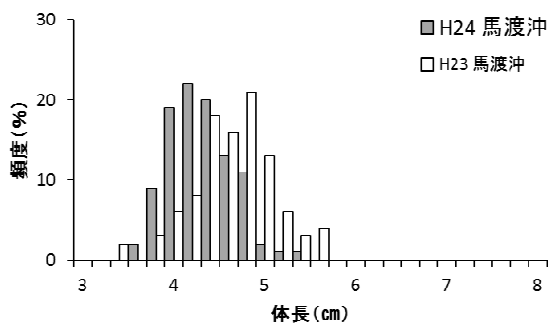


図3. 今年と昨年の北浦における採捕重量（上図）と採捕尾数（下図）。

## 2. 魚体の大きさ

各地点での体長組成を下図に示す。これらの平均体長は4.4～5.2cm、平均体重は0.9～1.4gであり、昨年と比べて同程度か僅かに小さかった（右表）。

	H24		H23	
	体長(cm)	体重(g)	体長(cm)	体重(g)
馬渡沖	4.4	0.9	4.8	1.0
江川沖	4.6	0.9	4.8	1.1
白浜沖	5.0	1.2	5.2	1.3
水原沖	5.2	1.4	4.9	1.1

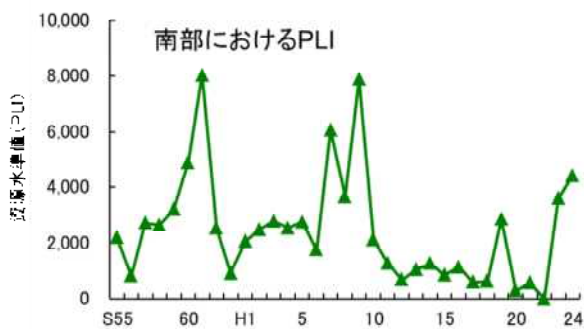
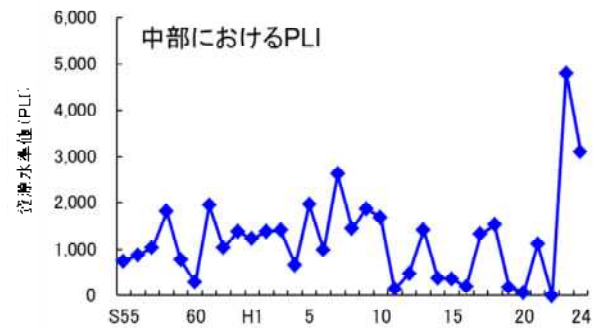
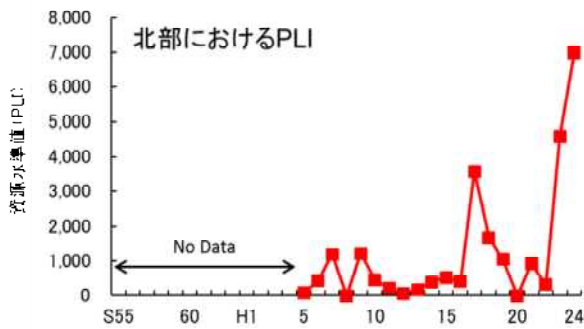
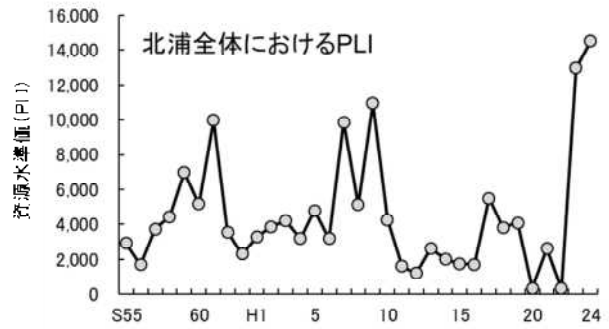


### 3. ワカサギの資源水準

採捕個体数から面積密度法を用いてワカサギの資源水準値 (PLI) を算出した。

北浦全体の PLI は 14,524 となり、昨年の 1.1 倍の水準であった (右図)。

同様に各水域別にみると、昨年に比べて北部では 1.5 倍、南部では 1.2 倍と増加したが、中部では 0.7 倍とやや減少した。



### 4. 漁模様予測

北浦全体の PLI と魚体サイズから、解禁日と 7 月下旬および 8 月上旬の 1 日 1 隻あたり漁獲量 (CPUE), さらに年間漁獲量について予測値を算出したところ、130 トンとなり、昨年同様の豊漁が見込まれた。

なお、今回予測された年間漁獲量は、魚体サイズが小さいことも考慮した上で算出している。

#### 【漁模様の予測値】

- ・ 解禁日の CPUE…75kg (H23 予測値 75kg, H22 未予測)
- ・ 7 月下旬 CPUE…60kg (H23 予測値 60kg, H22 予測値 30 kg)
- ・ 8 月上旬 CPUE…40kg (H23 予測値 40kg, H22 予測値 20 kg)
- ・ 年間漁獲量…130 トン (H23 予測値 130 トン, H22 予測値 70 トン)

※これら予想値は、近年の漁獲圧のもとで期待される値。

※解禁日の CPUE は参考値